あったもの，出生時体重が昭和４５年の乳幼児身体発育調査結果より算出されたパーセンタイル値で２５Ｐから７５Ｐをはずれるもの，生後６カ月未満で３カ月以上および生後６カ月から１２カ月まで４カ月以上来院しないものなどは除外した。これらの条件に合ったものは最終的に170例となった(表1)。なお,出生時体重のパーセンタイル値で２５Ｐおよび７５Ｐは男では2.９７Kgおよび3.５３Kg，女子では2.８５Kgおよび3.４４Kgである。

表1.

	男	女	計
母乳栄養児	44	53	97
人工栄養児	40	33	73
計	84	86	170

3. 方　法

母乳栄養と人工栄養の別は，生後６カ月までに完全に母乳栄養か人工栄養かによって区別した。ただし，生後数日間混合栄養で以後母乳のみのものは母乳栄養群に入れた。

出生時から生後１２カ月まで，各月ごとの実測値および来院しなかった月の補間値より平均値を求め，さらに３カ月ごとに移動平均して平滑化した値を求めた。

4. 結　果

体重についてみると，出生時平均体重が男では母乳栄養群3,２６８g，人工栄養群3,２２８g女では母乳栄養群3,１６６g，人工栄養群3,１３７gで殆んど等しく，これを生後１２カ月目の発育値でみると，男ではあまり差がなく（母乳栄養群9,６９９g，人工栄養群9,６７７g），女では人工栄養群（9,４８１g）が母乳栄養群（9,１０７g）より大きかった。

身長についてみると，出生時平均身長が男では母乳栄養群５０.３５cm，人工栄養群５０.０９cm女では母乳栄養群４９.６８cm　人工栄養群４９.６５cmで殆んど等しく，これを生後１２カ月目の発育値をみると，男では母乳栄養群７５.０２cm　人工栄養群７６.１２cmで1.１０cmの差があり，女では母乳栄養群（７４.２０cm）と人工栄養群（７４.０５cm）の間に殆んど差がなかった。

カウプ指数でみると，男では人工栄養群より母乳栄養群が，女では母乳栄養群より人工栄養群がそれぞれ大きい値を示した。

栄養法と初期体重減少の関係について

研究協力者　（国立公衆衛生院）　高野　陽

新生児期の初期体重減少は正常な経過をとったものでは出生体重の１０％以内といわれている。しかし，新生児の栄養法によってはその体重減少の程度に差が生ずるという報告もある。そこで早期新生児期（主として新生児室入院期間中）の体重の変動を母乳栄養（分泌不十分な場合には５％糖液を与える）児を対象に調査した。

対象は愛育病院産科にて1975年中に出生した在胎38週以上42週未満の640人である。体重減少量及び出生体重に対する減少の割合を，出生体重別に検討したものを表に示した。その結果，生後3日までは体重減少は著名で，生後4日以後はその割合は減り，増加傾向を見せるものの割合が漸増する。出生体重が小さいものでは出生体重への復帰は早く，出生体重が大きいものでは体重復帰は遅いという傾向がみられた。

		N	生後日齢 1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
増減量	総数	640人	-132g	-181g	-182g	-162g	-127g	-93g	-54g	-35g	-5g	+55g
	～2500g	11	-123	-149	-155	-119	-91	-61	-26	+18	+76	+134
	2501～3000	185	-122	-164	-160	-138	-97	-68	-25	-16	+24	+56
	3001～3500	315	-134	-195	-184	-173	-132	-97	-71	-46	-38	+37
	3501～	129	-143	-209	-213	-203	-158	-126	-64	-89	-15	+30
増減率	総数	640人	-4.2%	-5.9%	-5.7%	-5.2%	-4.0%	-2.9%	-1.6%	-1.0%	-0.02%	+2.0%
	～2500g	11	-5.3	-6.3	-6.6	-5.1	-3.9	-2.6	-1.1	+0.8	+3.5	+6.1
	2501～3000	185	-4.5	-5.9	-5.6	-5.0	-3.5	-2.4	-0.9	-0.5	+0.9	+2.5
	3001～3500	315	-4.1	-6.1	-5.7	-5.3	-4.3	-2.9	-2.2	-1.4	-1.2	+1.1
	3501～	129	-3.9	-5.3	-5.7	-5.5	-4.3	-3.4	-1.7	-2.3	-0.4	+0.7

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

新生児期の初期体重減少は正常な経過をとったものでは出生体重の 10%以内といわれている。しかし,新生児の栄養法によってはその体重減少の程度に差が生ずるという報告もある。そこで早期新生児期(主として新生児室入院期間中)の体重の変動を母乳栄養(分泌不十分な場合には 5%糖液を与える)児を対象に調査した。